

里山 おがみだけ 夫神岳

日程：2015年 7月 19日

メンバー：坂井 康悦

報告：坂井 康悦

信州青木村を南、北、西に取り囲む里山三山（夫神岳、子檀岳、十観山）のうち、夫神岳だけ、トレッキングしていないのが気になり、梅雨まだ明けやらぬ7月19日に登ってきた。

台風11号上陸のため、全国的に30℃を超える暑さで、低山の里山はさぞ暑かろうと覚悟の上でのトレッキングだった。三山は古くから霊山としてあがめられ奈良・平安時代からの官道—東山道（上田と松本を結ぶ主要路だった）を行く旅人は、これらの山に向かって旅の安全を祈り、無病息災を祈願し、雨乞いや稲の豊作を祈った信仰の山で、いずれの山頂にも祠が祭られている。太陽が高く上がらない涼しいうちにと思い早出した。

しっかりと夜露にぬれた気持ち良い山道を登り、コース・タイムどおりに9時すぎには山頂に着いた。広々とした山頂からは青木村の青々とした田畑が広がり、実に気持ち良かった。

下山後、今では人も車もまれにしか通らない車幅ぐらいしかない狭い東山道を車でゆっくりと走った。沓掛温泉から夏木立の峠道を小1時間ほどで保福寺峠（1,345m）に着いた。若者5人が峠へサイクリングして登っているのを見かけただけの気持ち良い静かな峠道だった。このぐらいの傾斜の峠道であれば、私でもサイクリングで登って来れたかもしれないなどと勝手に思い、息を切らせてペダルを踏んで頑張っている澆刺とした若人をうらやましくながめていた。

日本アルプスを世界に紹介し「近代登山の父」として知られるウォルター・ウエストンが東山道の難所、保福寺峠で足を止めて、初めて日本アルプスの絶景を目にし、後に「ウエストン日本アルプス絶賛の地」の碑がここに建てられていた。確かに、安曇野の方面が大きく開けていて素晴らしい槍・穂高の北アルプスの山稜が眺められるだろうと思われた。あいにくこの日は雲が多く北アルプスの雄麗なパノラマは、霞がかかって定かに見られず実に残念だった。東山道は古い街道筋の由、一遍上人が立ち寄った「一遍水」、弘法大師にまつわる「石芋」伝説とか、薬師堂、明神様を祭った堂宇やらがあり、一級の幹線道路として息づいていた歴史が感じられた。古くからのひなびた温泉宿と調和して、親しみの持てる土地柄で趣があり、印象に残る良いところであった。



【クイズ：ウエストン碑】

（「ウエストン日本アルプス絶賛の地」は、どこでしょうか？ [答えは文中にあり]）